

# 北海道医療新聞

10月4日  
 2019年・2291号  
 毎週金曜日発行  
 年間購読料20,000円  
 (前納/税別)  
 発行所  
 株式会社北海道医療新聞社  
 〒060-0042  
 札幌市中央区大通西6丁目  
 (北海道医師会館)  
 TEL 011(221)7777  
 www.medim.co.jp

## 回復期リハ病棟で多職種連携

### 入退院支援にICCF活用

函館・高橋

函館市の高橋病院(高橋肇理事長179床)は、回復期リハ病棟における入退院支援の質向上へ、ICCF(国際生活機能分類)の概念を導入。患者の個別性を重視したケースカンファレンスにより多職種連携を強化し、FIM実績指数の改善や在棟日数の短縮につなげている。

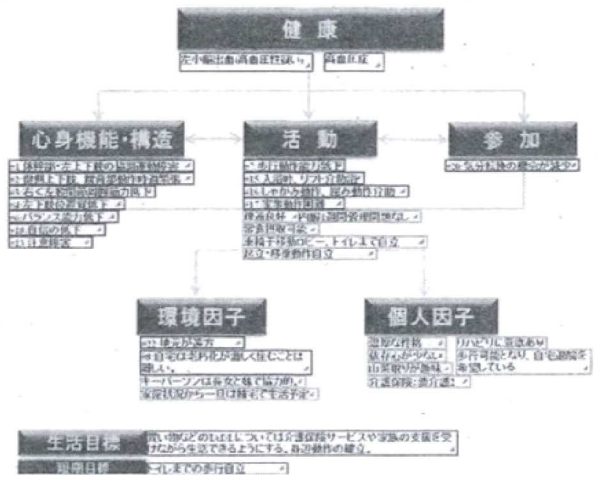
回復期リハ病棟では、従来から多職種によるケースカンファレンスを行っていたが、職種ごとの目標を設定しがちで、多職種連携を意識した新たなアプローチが課題とな

っていた。各職種が専門性に拘わられることなく、統一した目標に向けて患者に関わり、入退院支援へ、法人情報システムが独自のソフト「ICCFシート」を開発。2017年10月から、ICCF分類を用いたケースカンファレンスを開始した。同シートは入院から7日以内に医師、看護師、セラピスト、ソーシャルワーカーが記載し、その後1カ月ごとに作成する。個別性を重視し、患者ごとの「健康」「心身機能・構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」などの項目を記載。退院「フレイルシート」を作

成し、薬剤師、放射線技師、管理栄養士をはじめ、全てのコメディカルスタッフが加わり、それぞれの視点から問題点などの情報を記載。1カ月ごとに評価し、チームやケースカンファレンスで共有することで、ADL向上につなげている。

FIM視覚化へ  
 独自ソフト開発  
 さらに、FIM実績指数を視覚化するソフトも開発。画面に入院から退院までの運動・認知の実績指数をグラフで示し、時系列で評価も表示されるため、変化を全スタッフが即座に確認できる。また、予測FIM実績指数もグラフで確認。食事、入浴、歩行などについて、予測に満たない動作、超えている動作を把握するなど、チームでFIM実績指数を管理し、ケースカンファレンスやADLカンファレンスで活用している。

# Hospital & Clinic



ICCFシートを用いてプラス・マイナス要素を共有・把握している

こうした取り組みにより、FIM実績指数は累計で15前後上昇し、6カ月平均で37以上を維持。18年の在棟日数は、17年と比べ平均17日短縮

した。地域包括ケア推進室の野田正貴作業療法士は、「多職種協働が増えたことで一体感が生まれ、患者の捉え方にも変化が出てきた。」  
 現在、病院だけでなく、法人内施設・在宅サビ事業所においても、ICCF時系列表示による情報共有を行い、質向上につながるか試行している。今後は、地域の共通した仕組みとして、他事業所への普及・拡大を目指していく考えだ。